

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経営戦略 II		(TGB114)
講義名 (コード)	経営戦略 II		(TGB114)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。□ □	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	企業を経営するための様々な戦略の概要を理解する。 特に企業の様々な関係者とどのように関わるのかを考える。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れるので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 40%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 30%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション：広告と広報の違いを理解	広告・広報の目的と役割を整理する
2	広告戦略の基礎を理解	ターゲット・媒体・訴求軸を設計する方法
3	メディア戦略①：マス広告を理解	テレビ・新聞・ラジオなどの特性を理解する
4	メディア戦略②：SNSとインフルエンサーを理解	デジタル時代の新しい広告手法を学ぶ
5	クリエイティブ戦略を理解	コピーライティングとビジュアル表現の基本
6	広告の効果測定を理解	KPIとROIで施策を評価する方法
7	広告倫理とコンプライアンスを理解	炎上・誤解・法令違反をどう防ぐか
8	広報戦略の基礎を理解	PRの定義と広告との違いを再確認する
9	メディアリレーションズとプレスリリースを理解	メディアと信頼関係を築く技術
10	クライシス・コミュニケーションを理解	謝罪会見と情報コントロールの現場
11	IR・CSR・SDGsと広報を理解	投資家・社会への説明責任を果たすには
12	社内広報と企業文化を理解	働く人の共感と行動を引き出す広報
13	広報・広告の統合設計を理解	組織の総合戦略としての統一感を考える
14	後期まとめ	学びの再確認と実社会への応用ヒント
15	テスト	後期内容の理解度を測り今後へつなげる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Entrepreneur概論 II		(TGB122)
講義名 (コード)	Entrepreneur概論 II		(TGB122)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	起業が身近な日本社会で、社会に対して広く深い視点を持つことの大切さを理解する。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	強みをつくって守って伸ばせ①	強みとは何か
2	強みをつくって守って伸ばせ②	強みの生み方作り育て方
3	自分の考えを事業計画書にまとめてみよう①	事業計画書の大切さ
4	自分の考えを事業計画書にまとめてみよう②	事業計画書の作り方
5	最良チームをつくる①	起業のジレンマ
6	最良チームをつくる②	経営ビジョンの共有と成長に伴う課題
7	お金を調達する①	融資と出資
8	お金を調達する②	成長ステージと資金調達
9	お金の流れを管理しよう①	キャッシュフローの重要性
10	お金の流れを管理しよう②	キャッシュフローと企業の成長段階
11	成長することの楽しさ, 難しさを 知ろう①	ベンチャー企業の成長段階
12	成長することの楽しさ, 難しさを 知ろう②	成長の楽しさ・難しさ
13	ゴールの先に向けて①	事業のゴール設定
14	ゴールの先に向けて②	ベンチャー企業と株式
15	テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名(コード)	TGB156B_ミクロ経済学B		(156B)
講義名(コード)	TGB156B_ミクロ経済学B		(156B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	浅沼 渉	時間数	30
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国全体の経済動向を把握するための主要な経済指標と、経済の安定化や成長を促すための政府の経済政策について理解することを目標とする。景気変動、物価、失業といったマクロ経済の課題を分析し、政府の介入の意義や限界を考察する能力を養う。
全体の内容と概要	マクロ経済学の主要な理論と政策について学ぶ。国民所得の概念と測定、消費・貯蓄・投資の決定、貨幣と金融市場、財政政策と金融政策の効果、国際貿易と為替レート、そして経済成長と景気循環といったテーマを取り扱う。ケインズ経済学から現代のマクロ経済学の枠組みまでを概観し、政府の経済政策の役割について多角的に分析する。
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。指定されたテキストの該当箇所を読み、配布されるワークシートの内容を確認しておくことで、授業内容の理解が深まります。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをチェックすること。授業資料の配布や連絡事項の通知はTeams Classroomを通じて行われます。1/3以上の欠席は単位が認められません。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	マクロ経済学の全体像と主要な概念を理解する。	国民経済計算の基本、GDPの概念と計算方法、経済成長と景気変動、物価とインフレーションについて学ぶ。
2	ケインズの経済学を理解し、その意義を説明する。	ケインズ以前の古典派経済学との違い、有効需要の原理、乗数効果のメカニズム、政府の経済介入の必要性について学ぶ。
3	消費と貯蓄の決定要因を理解し、消費関数を説明する。	消費関数、貯蓄関数、平均消費性向、限界消費性向、所得の変化が消費と貯蓄に与える影響について学ぶ。
4	投資の決定要因と投資関数を理解する。	投資の意義、投資と利子率の関係、設備投資、在庫投資、住宅投資の各側面、投資の変動が経済に与える影響について学ぶ。
5	景気循環のパターンと原因を理解する。	景気循環の各局面（好況、後退、不況、回復）、さまざまな景気循環論（ジュグラー、コンドラチェフなど）、景気変動要因について学ぶ。
6	長期的な経済成長の要因と理論を理解する。	経済成長の定義、ハロッド=ドーマーモデル、ソローモデル、技術進歩の役割、内生的成長理論の考え方について学ぶ。
7	貨幣の機能と金融政策の基本を理解する。	貨幣の役割（交換手段、価値尺度、貯蔵）、貨幣供給と貨幣需要、中央銀行の役割、公開市場操作など金融政策の手段について学ぶ。
8	IS-LMモデルの基本を理解し、財政政策と金融政策の効果を説明する。	IS曲線（財市場の均衡）、LM曲線（貨幣市場の均衡）、IS-LMモデルにおける財政政策と金融政策の効果について学ぶ。
9	国際収支の構造と外国為替レートの決定メカニズムを理解する。	経常収支と資本収支、固定相場制と変動相場制、為替レートの変動要因、購買力平価説について学ぶ。
10	IS-LM-BPモデルを用いて開放経済下のマクロ経済政策を分析する。	BP曲線（国際収支の均衡）、IS-LM-BPモデルによる財政政策と金融政策の開放経済下の効果、マンデル=フレミングモデルについて学ぶ。
11	フィリップス曲線概念と、失業とインフレの関係を理解する。	フィリップス曲線の定義、短期と長期のフィリップス曲線、自然失業率仮説、スタグフレーションについて学ぶ。
12	クラウディングアウト概念と、財政政策への影響を理解する。	クラウディングアウトのメカニズム、財政政策の効果の限界、貨幣供給との関係について学ぶ。
13	プレビュー	
14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	経済学見るだけノート
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	簿記・会計論Ⅱ		(TGB160)
講義名 (コード)	簿記・会計論ⅡA		(TGB160A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島 理士	時間数	30時間
成績評価教員	中島 理士	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	財務分析の基礎および管理会計
全体の内容と概要	<p>計数感覚を身に着けビジネスに活用</p> <p>1.決算書とは？ストックとフローの2つの性格 貸借対照表「資産」「負債」「純資産」にはどのようなものか 損益計算書 収益と費用はどのようなものか</p> <p>2.損益計画と資金計画シミュレーション／計画順位とその手法／予測財務諸表の流れ／ 損益計画の基礎知識／目標指標の設定</p> <p>3.簡単な財務諸表の見方、その-1 企業の稼ぐ力を見る（収益性分析）、売上高利益率と回転率</p> <p>4.簡単な財務諸表の見方、その-2 企業の財務リスクを見る、自己資本比率・流動比率・固定比率</p> <p>5.簡単な財務諸表の見方、その-3 分析した結果を基にグループディスカッション、講評</p> <p>Developing Numerical Sensitivity and Applying It to Business What Are Financial Statements? The Two Aspects of Stock and Flow Understanding the components of the balance sheet: "Assets," "Liabilities," and "Equity" Understanding the income statement: Revenue and expenses Profit and Cash Flow Planning Simulations Planning priorities and methods The flow of projected financial statements Basic knowledge of profit planning and setting target indicators Basic Interpretation of Financial Statements - Part 1 Assessing a company's earning power (profitability analysis) Understanding profit margins and turnover ratios Basic Interpretation of Financial Statements - Part 2 Evaluating a company's financial risk Understanding equity ratio, current ratio, and fixed asset ratio Basic Interpretation of Financial Statements - Part 3 Group discussion based on the analysis results Feedback and review</p>
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	講義は日本語のみ 電卓（12桁以上）・教科書・筆記用具は必ず持参の上受講すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	9/30 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L) 報告式損益計算書
2	10/7 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L)
3	10/14 財務諸表の基礎理解	キャッシュフロー計算書 (入門)
4	10/21 意思決定会計基礎	意思決定会計入門
5	10/28 日常の取引の基礎理解	演習
6	11/4 日常の取引の基礎理解	演習
7	11/11 決算の基礎理解	演習
8	11/18 決算の基礎理解	演習
9	11/25 財務分析	財務分析基礎
10	12/2 財務分析基礎	収益性・安全性・効率性 (プリント)
11	12/9 財務分析基礎	管理会計・CVP分析 (プリント)
12	1月13日	財務分析演習
13	1月20日	前期末試験に出題されそうなテーマを解説します。
14	期末試験	
15	追試	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級トレーニング (TAC出版)
参考文献・資料等	日商簿記2級合格テキスト商業簿記・工業簿記 (TAC出版) ・経営分析の基本 (日本経済新聞出版社) その他、簿記・会計に関する資料。
備考	簿記・会計論 I の復習を含みます。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	簿記・会計論Ⅱ		(TGB160)
講義名 (コード)	簿記・会計論ⅡB		(TGB160B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島 理士	時間数	30時間
成績評価教員	中島 理士	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	財務分析の基礎および管理会計
全体の内容と概要	<p>計数感覚を身に着けビジネスに活用</p> <p>1.決算書とは？ストックとフローの2つの性格 貸借対照表「資産」「負債」「純資産」にはどのようなものか 損益計算書 収益と費用はどのようなものか</p> <p>2.損益計画と資金計画シミュレーション/計画順位とその手法/予測財務諸表の流れ/ 損益計画の基礎知識/目標指標の設定</p> <p>3.簡単な財務諸表の見方、その-1 企業の稼ぐ力を見る（収益性分析）、売上高利益率と回転率</p> <p>4.簡単な財務諸表の見方、その-2 企業の財務リスクを見る、自己資本比率・流動比率・固定比率</p> <p>5.簡単な財務諸表の見方、その-3 分析した結果を基にグループディスカッション、講評</p> <p>Developing Numerical Sensitivity and Applying It to Business What Are Financial Statements? The Two Aspects of Stock and Flow Understanding the components of the balance sheet: "Assets," "Liabilities," and "Equity" Understanding the income statement: Revenue and expenses Profit and Cash Flow Planning Simulations Planning priorities and methods The flow of projected financial statements Basic knowledge of profit planning and setting target indicators Basic Interpretation of Financial Statements - Part 1 Assessing a company's earning power (profitability analysis) Understanding profit margins and turnover ratios Basic Interpretation of Financial Statements - Part 2 Evaluating a company's financial risk Understanding equity ratio, current ratio, and fixed asset ratio Basic Interpretation of Financial Statements - Part 3 Group discussion based on the analysis results Feedback and review</p>
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	講義は日本語のみ 電卓（12桁以上）・教科書・筆記用具は必ず持参の上受講すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	9/30 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L) 報告式損益計算書
2	10/7 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L)
3	10/14 財務諸表の基礎理解	キャッシュフロー計算書 (入門)
4	10/21 意思決定会計基礎	意思決定会計入門
5	10/28 日常の取引の基礎理解	演習
6	11/4 日常の取引の基礎理解	演習
7	11/11 決算の基礎理解	演習
8	11/18 決算の基礎理解	演習
9	11/25 財務分析	財務分析基礎
10	12/2 財務分析基礎	収益性・安全性・効率性 (プリント)
11	12/9 財務分析基礎	管理会計・CVP分析 (プリント)
12	1月13日	財務分析演習
13	1月20日	前期末試験に出題されそうなテーマを解説します。
14	期末試験	
15	追試	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級トレーニング (TAC出版)
参考文献・資料等	日商簿記2級合格テキスト商業簿記・工業簿記 (TAC出版)・経営分析の基本 (日本経済新聞出版社) その他、簿記・会計に関する資料。
備考	簿記・会計論 I の復習を含みます。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マーケティング概論	(TGB146)
講義名 (コード)	マーケティング概論	(TGB146)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数 30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基本を理解して他の科目とのつながりを考える。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れるので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 40%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 30%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
2	マーケティングって何？基礎から理解しよう	4P（製品・価格・流通・プロモーション）の概要
3	消費者はなぜ買うのか？行動のしくみ	消費者心理・購買プロセス（AIDMA・AISAS）
4	消費者の心理を読み解く	セグメント・ターゲット・ポジショニング（STP分析）
5	ライバルに勝つ戦略とは？	競争優位性の考え方（3C分析、SWOT分析）
6	中間テスト	中間テスト
7	商品の魅力をどう作る？	製品ライフサイクル（導入期・成長期・成熟期・衰退期）
8	値段のつけ方に隠された戦略	価格設定の基本（コスト・バリュー・競争ベース）
9	商品はどこまで届くのか？	チャネル戦略（直接販売・小売・EC・卸売の違い）
10	広告・販促の基本をおさえよう	広告・PR・販売促進の基本（マスメディア・デジタル）
11	心を動かすプロモーションの実例	SNS・口コミ・インフルエンサーマーケティング
12	ブランドが生む価値と信頼	ブランドとは何か？ブランド価値の作り方
13	データで読み解く顧客の声	市場調査の方法（アンケート・観察・インタビュー）
14	まとめ	まとめ
15	期末テスト	期末テスト

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TDB132_ミクロ経済学		(TDB132)
講義名 (コード)	TDB132_ミクロ経済学		(TDB132)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	吉田 和正	時間数	30
成績評価教員	吉田 和正	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国全体の経済動向を把握するための主要な経済指標と、経済の安定化や成長を促すための政府の経済政策について理解することを目標とする。景気変動、物価、失業といったマクロ経済の課題を分析し、政府の介入の意義や限界を考察する能力を養う。
全体的内容と概要	マクロ経済学の主要な理論と政策について学ぶ。国民所得の概念と測定、消費・貯蓄・投資の決定、貨幣と金融市場、財政政策と金融政策の効果、国際貿易と為替レート、そして経済成長と景気循環といったテーマを取り扱う。ケインズ経済学から現代のマクロ経済学の枠組みまでを概観し、政府の経済政策の役割について多角的に分析する。
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。指定されたテキストの該当箇所を読み、配布されるワークシートの内容を確認しておくことで、授業内容の理解が深まります。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをチェックすること。授業資料の配布や連絡事項の通知はTeams Classroomを通じて行われます。1/3以上の欠席は単位が認められません。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	



4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	マクロ経済学の全体像と主要な概念を理解する。	国民経済計算の基本、GDPの概念と計算方法、経済成長と景気変動、物価とインフレーションについて学ぶ。
2	ケインズの経済学を理解し、その意義を説明する。	ケインズ以前の古典派経済学との違い、有効需要の原理、乗数効果のメカニズム、政府の経済介入の必要性について学ぶ。
3	消費と貯蓄の決定要因を理解し、消費関数を説明する。	消費関数、貯蓄関数、平均消費性向、限界消費性向、所得の変化が消費と貯蓄に与える影響について学ぶ。
4	投資の決定要因と投資関数を理解する。	投資の意義、投資と利子率の関係、設備投資、在庫投資、住宅投資の各側面、投資の変動が経済に与える影響について学ぶ。
5	景気循環のパターンと原因を理解する。	景気循環の各局面（好況、後退、不況、回復）、さまざまな景気循環論（ジュグラール、コンドラチエフなど）、景気変動要因について学ぶ。
6	長期的な経済成長の要因と理論を理解する。	経済成長の定義、ハロッド＝ドーマーモデル、ソローモデル、技術進歩の役割、内生的成長理論の考え方について学ぶ。
7	貨幣の機能と金融政策の基本を理解する。	貨幣の役割（交換手段、価値尺度、貯蔵）、貨幣供給と貨幣需要、中央銀行の役割、公開市場操作など金融政策の手段について学ぶ。
8	IS-LMモデルの基本を理解し、財政政策と金融政策の効果を説明	IS曲線（財市場の均衡）、LM曲線（貨幣市場の均衡）、IS-LMモデルにおける財政政策と金融政策の効果について学ぶ。
9	国際収支の構造と外国為替レートの決定メカニズムを理解す	経常収支と資本収支、固定相場制と変動相場制、為替レートの変動要因、購買力平価説について学ぶ。
10	IS-LM-BPモデルを用いて開放経済下のマクロ経済政策を分析す	BP曲線（国際収支の均衡）、IS-LM-BPモデルによる財政政策と金融政策の開放経済下の効果、マンデル＝フレミングモデルについて学ぶ。
11	フィリップス曲線概念と、失業とインフレの関係を理解す	フィリップス曲線の定義、短期と長期のフィリップス曲線、自然失業率仮説、スタグフレーションについて学ぶ。
12	クラウディングアウトの概念と、財政政策への影響を理解す	クラウディングアウトのメカニズム、財政政策の効果の限界、貨幣供給との関係について学ぶ。
13	プレビュー	
14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	経済学見るだけノート
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Entrepreneur概論 II		(TGB122)
講義名 (コード)	Entrepreneur概論 II		(TGB122)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	起業が身近な日本社会で、社会に対して広く深い視点を持つことの大切さを理解する。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	強みをつくって守って伸ばせ①	強みとは何か
2	強みをつくって守って伸ばせ②	強みの生み方作り育て方
3	自分の考えを事業計画書にまとめてみよう①	事業計画書の大切さ
4	自分の考えを事業計画書にまとめてみよう②	事業計画書の作り方
5	最良チームをつくる①	起業のジレンマ
6	最良チームをつくる②	経営ビジョンの共有と成長に伴う課題
7	お金を調達する①	融資と出資
8	お金を調達する②	成長ステージと資金調達
9	お金の流れを管理しよう①	キャッシュフローの重要性
10	お金の流れを管理しよう②	キャッシュフローと企業の成長段階
11	成長することの楽しさ, 難しさを 知ろう①	ベンチャー企業の成長段階
12	成長することの楽しさ, 難しさを 知ろう②	成長の楽しさ・難しさ
13	ゴールの先に向けて①	事業のゴール設定
14	ゴールの先に向けて②	ベンチャー企業と株式
15	テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TGB156B_ミクロ経済学A	(156A)
講義名 (コード)	TGB156B_ミクロ経済学A	(156A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	浅沼 涉	時間数 30
成績評価教員	浅沼 涉	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国全体の経済動向を把握するための主要な経済指標と、経済の安定化や成長を促すための政府の経済政策について理解することを目標とする。景気変動、物価、失業といったマクロ経済の課題を分析し、政府の介入の意義や限界を考察する能力を養う。
全体の内容と概要	マクロ経済学の主要な理論と政策について学ぶ。国民所得の概念と測定、消費・貯蓄・投資の決定、貨幣と金融市場、財政政策と金融政策の効果、国際貿易と為替レート、そして経済成長と景気循環といったテーマを取り扱う。ケインズ経済学から現代のマクロ経済学の枠組みまでを概観し、政府の経済政策の役割について多角的に分析する。
授業時間外の学修	授業前の予習をしっかりと行うこと。指定されたテキストの該当箇所を読み、配布されるワークシートの内容を確認しておくことで、授業内容の理解が深まります。
履修上の注意事項等	定期的にTeams Classroomをチェックすること。授業資料の配布や連絡事項の通知はTeams Classroomを通じて行われます。1/3以上の欠席は単位が認められません。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	マクロ経済学の全体像と主要な概念を理解する。	国民経済計算の基本、GDPの概念と計算方法、経済成長と景気変動、物価とインフレーションについて学ぶ。
2	ケインズの経済学を理解し、その意義を説明する。	ケインズ以前の古典派経済学との違い、有効需要の原理、乗数効果のメカニズム、政府の経済介入の必要性について学ぶ。
3	消費と貯蓄の決定要因を理解し、消費関数を説明する。	消費関数、貯蓄関数、平均消費性向、限界消費性向、所得の変化が消費と貯蓄に与える影響について学ぶ。
4	投資の決定要因と投資関数を理解する。	投資の意義、投資と利子率の関係、設備投資、在庫投資、住宅投資の各側面、投資の変動が経済に与える影響について学ぶ。
5	景気循環のパターンと原因を理解する。	景気循環の各局面（好況、後退、不況、回復）、さまざまな景気循環論（ジューグラー、コンドラチェフなど）、景気変動要因について学ぶ。
6	長期的な経済成長の要因と理論を理解する。	経済成長の定義、ハロッド=ドーマーモデル、ソローモデル、技術進歩の役割、内生的成長理論の考え方について学ぶ。
7	貨幣の機能と金融政策の基本を理解する。	貨幣の役割（交換手段、価値尺度、貯蔵）、貨幣供給と貨幣需要、中央銀行の役割、公開市場操作など金融政策の手段について学ぶ。
8	IS-LMモデルの基本を理解し、財政政策と金融政策の効果を説明する。	IS曲線（財市場の均衡）、LM曲線（貨幣市場の均衡）、IS-LMモデルにおける財政政策と金融政策の効果について学ぶ。
9	国際収支の構造と外国為替レートの決定メカニズムを理解する。	経常収支と資本収支、固定相場制と変動相場制、為替レートの変動要因、購買力平価説について学ぶ。
10	IS-LM-BPモデルを用いて開放経済下のマクロ経済政策を分析する。	BP曲線（国際収支の均衡）、IS-LM-BPモデルによる財政政策と金融政策の開放経済下の効果、マンデル=フレミングモデルについて学ぶ。
11	フィリップス曲線概念と、失業とインフレの関係を理解する。	フィリップス曲線の定義、短期と長期のフィリップス曲線、自然失業率仮説、スタグフレーションについて学ぶ。
12	クラウディングアウトの概念と、財政政策への影響を理解する。	クラウディングアウトのメカニズム、財政政策の効果の限界、貨幣供給との関係について学ぶ。
13	プレビュー	
14	期末試験	
15	フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	経済学見るだけノート
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	グローバルビジネス環境論 II_A	(TGB154A)
講義名 (コード)	TGB_グローバルビジネス環境論 II_A	(TGB154A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	小川 一幸	時間数 30
成績評価教員	小川 一幸	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	様々な国の仲間と国際社会を考える。異なる文化背景を持つクラスメイトの意見を聞きながら、国際社会で起きている事象を多角的な視点で捉え、自分の考えを述べる能力を養う。
全体の内容と概要	後期は、前期のマーケティングトピックスのプレゼンをベースに、5名程度のグループワークを行う。ベーシックなマーケティング手法を活用し、商品の販売企画を作成及びプレゼンテーションを
授業時間外の学修	日々変化をするグローバルビジネスの現状把握を適宜行う。
履修上の注意事項等	グループワークでの作業分担に偏りがないように指導する。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容	
		前半	後半
1	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・ネーミングとパッケージ・製品のライフサイクル	グループワーク（役割・作業分担）
2	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・ブランド戦略・マーケティングと価格	グループワーク（ブレインストーミング）
3	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・臨界点（ブレイクポイント）・顧客満足（CS）	グループワーク（テーマ設定）
4	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・マーケティングと価格	グループワーク（草稿1）
5	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・臨界点（ブレイクポイント）	グループワーク（草稿2）
6	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・顧客満足（CS）	グループワーク（草稿3）
7	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・流通組織とチャネル	グループワーク（清書PC1） /PowerPoint or Keynote
8	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・メーカーの営業組織と卸売、小売の関係	グループワーク（清書PC1） /PowerPoint or Keynote
9	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・小売店の特徴と今後	グループワーク（清書PC2） /PowerPoint or Keynote
10	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・AIDMAとプロモーション戦略	グループワーク（清書PC3） /PowerPoint or Keynote
11	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・広告戦略	グループワーク プレゼンテーション1
12	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・メディア・ミックス	グループワーク プレゼンテーション2
13	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・商品のライフサイクル・SP広告	グループワーク プレゼンテーション3
14	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・期末試験	期末試験
15	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・グローバルビジネスのまとめ・期末試験返却	プレゼンテーション総評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	・オリジナルプリント教材
参考文献・資料等	・新聞や関連新書のタイムリーなマーケティング関連教材を適宜参考
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	グローバルビジネス環境論 II_B	(TGB154B)
講義名 (コード)	TGB_グローバルビジネス環境論 II_B	(TGB154B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	小川 一幸	時間数 30
成績評価教員	小川 一幸	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	様々な国の仲間と国際社会を考える。異なる文化背景を持つクラスメイトの意見を聞きながら、国際社会で起きている事象を多角的な視点で捉え、自分の考えを述べる能力を養う。
全体の内容と概要	後期は、前期のマーケティングトピックスのプレゼンをベースに、5名程度のグループワークを行う。ベーシックなマーケティング手法を活用し、商品の販売企画を作成及びプレゼンテーションを
授業時間外の学修	日々変化をするグローバルビジネスの現状把握を適宜行う。
履修上の注意事項等	グループワークでの作業分担に偏りがないように指導する。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容	
		前半	後半
1	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・ネーミングとパッケージ・製品のライフサイクル	グループワーク（役割・作業分担）
2	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・ブランド戦略・マーケティングと価格	グループワーク（ブレインストーミング）
3	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・臨界点（ブレイクポイント）・顧客満足（CS）	グループワーク（テーマ設定）
4	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・マーケティングと価格	グループワーク（草稿1）
5	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・臨界点（ブレイクポイント）	グループワーク（草稿2）
6	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・顧客満足（CS）	グループワーク（草稿3）
7	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・流通組織とチャネル	グループワーク（清書PC1） /PowerPoint or Keynote
8	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・メーカーの営業組織と卸売、小売の関係	グループワーク（清書PC1） /PowerPoint or Keynote
9	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・小売店の特徴と今後	グループワーク（清書PC2） /PowerPoint or Keynote
10	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・AIDMAとプロモーション戦略	グループワーク（清書PC3） /PowerPoint or Keynote
11	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・広告戦略	グループワーク プレゼンテーション1
12	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・メディア・ミックス	グループワーク プレゼンテーション2
13	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・商品のライフサイクル・SP広告	グループワーク プレゼンテーション3
14	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・期末試験	期末試験
15	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・グローバルビジネスのまとめ・期末試験返却	プレゼンテーション総評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	・オリジナルプリント教材
参考文献・資料等	・新聞や関連新書のタイムリーなマーケティング関連教材を適宜参考
備考	

1. 本授業科目の基本情報

講義名 (コード)	TGB104A	TGB_ビジネスマナー II_A		
科目名 (コード)	TGB104	TGB_ビジネスマナー II_A		
対象学科	グローバルビジネス学科		配当学年	1年生
対象コース	GB1		単位数	2単位30
授業担当者	高橋 春子		時間数	
成績評価教員	高橋 春子		講義期間	秋期
実務者教員			履修区分	必修
実務者教員特記欄				

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	卒業後の自分の進路のために、具体的に計画し、動き始めることができるようになる。
全体の内容と概要	卒業後の自分の進路のために、動き出せるように各種サイトの活用や、実際に希望する進路先の場所を訪問することができるように学び、実施する
授業時間外の学修	卒業後の進路のために、進路先の場所の訪問やイベントに参加するところを推奨することがある
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみに成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になることもある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	夏休みまでの振り返りと今後について	卒業後の進路のために、これまで自分がしてきたことの振り返りと不足点について知る
2	履歴書の作成と面接について、各種エントリーなど①	受験や就活に向けての履歴書の作成や面接練習の確認と、各種エントリーの実施①
3	履歴書の作成と面接について、各種エントリーなど②	受験や就活に向けての履歴書の作成や面接練習の確認と、各種エントリーの実施②
4	履歴書の作成と面接について、各種エントリーなど③	受験や就活に向けての履歴書の作成や面接練習の確認と、各種エントリーの実施③
5	企業が欲しい人財について	「社会人基礎力」を学ぶことにより企業が必要とする人財について学び、自分について見つめ直す
6	自己分析	前回の授業から、過去現在・今後のなりたい自分について見直し、履歴書等に活かす準備をする
7	履歴書アップデート	前回の授業から、履歴書のアップデートをする
8	面接対応アップデート	前回・前々回の内容等から面接での応答内容についてアップデートする
9	グループ面接	グループ面接で、面接官役等を経験し、客観的に面接を考える
10	Emailや電話での資料の請求と合格・内定辞退について	大学や企業にコンタクトするときの方法を知る
11	合格・内定をもらったら	大学の合格や、企業から内々定・内定をもらった時にすべきことを知る
12	ここまでの振り返りと今後のスケジュール	ここまでの授業と自分の活動を振り返り、修正が必要な場合にはその点を考える
13	テスト前まとめ	ここまで学んだことを振り返り、テストに向けて準備する
14	期末試験	期末テスト
15	追試・フィードバック	復習等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特になし
参考文献・資料等	必要な場合には 随時指示する
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合もある

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	社会人総合Ⅱ	(TGB140)	
講義名 (コード)	社会人総合ⅡB	(TGB140B)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、敬語の習得とともに「話す」「聞く」力を高める。 国際力、人間力教育におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。
全体の内容と概要	様々な場面での正しい敬語の習得を目指し、グループワーク、発表などを通して自分の主張や他社の主張を正確に理解できるようになるための反復練習をする。
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自信をもってビジネス会話ができるようになる。	前期の復習 滑らかに話す 面接練習
2		10. サービスの敬語 ペアワーク
3	積極的に会話し、要点が正しく聞き取れる。	11. 相談を受ける ペアワーク 面接練習
4		12. スピーチをする 人前で話すストラテジーを学ぶ
5		13. 面接を受ける 面接のテクニックを学ぶ
6	最も難しい電話の会話に自信が持てるようになる。	14. 電話の敬語 難しいとされる電話の会話を学ぶ
7		15. インタビューする グループワーク
8	より豊かな表現力を身に着ける。	16. 報告をする 報告の要点を学ぶ 面接練習
9		17. 司会の敬語 グループワーク
10		18. メールの敬語 メールの書式、表現を学ぶ 面接練習
11		だんだん敬語をとる 自然な日常会話
12		後期のまとめ 面接練習
13		後期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「新にほんご敬語トレーニング」
参考文献・資料等	適宜SPIも展開する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

講義名 (コード)	TGB168	情報リテラシーⅡ	
科目名 (コード)	TGB168	情報リテラシーⅡ	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者	浅沼 涉	時間数	
成績評価教員	浅沼 涉	講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	選択必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	本学の教育理念に基づきキャリアを自ら形成・発展させ、企業や実社会の様々な分野で即戦力として活躍できることを目的として、ICT(情報通信技術)の基本スキルを習得する。
全体の内容と概要	職業人および職業人となる誰もが備えておくべき、ITに関する共通的な基礎知識を測る国家試験であるITパスポート資格取得に必要な知識を学ぶ。
授業時間外の学修	ITパスポートの過去問や類題を数多く解くこと。
履修上の注意事項等	MOS対策 (WORD, EXCEL) の授業との関連性を意識して取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	データベースについて理解する	データベースとデータ操作、データベース設計、データの正規化
2	データベースについて理解する	データの抽出と論理演算、データの整列と集計、トランザクション処理
3	アルゴリズムとプログラミングについて理解する	アルゴリズムとデータ構造、擬似言語、プログラム言語とマークアップ言語
4	マネジメントについて理解する	企画・要件定義プロセス、開発プロセス、テスト手法と運用・保守プロセス
5	マネジメントについて理解する	ソフトウェア開発手法、プロジェクトマネジメント、タイムマネジメント
6	マネジメントについて理解する	ITサービスマネジメント、システム監査
7	企業活動と法務について理解する	財務諸表、損益分岐点と資産管理、知的財産権
8	企業活動と法務について理解する	セキュリティ関連法規、労働関連・取引関連法規、業務分析
9	企業活動と法務について理解する	データ利活用と問題解決、標準化
10	経営戦略とシステム戦略について理解する	第4次産業革命とビッグデータ、企業活動、企業統治と内部統制
11	経営戦略とシステム戦略について理解する	経営戦略、情報システム戦略と業務プロセス、マーケティング戦略
12	経営戦略とシステム戦略について理解する	技術戦略、業績評価と経営管理システム、ビジネスシステムとエンジニアリング、e-ビジネス
13	1年のまとめ	模擬試験
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策WORD II	(TGB142)	
講義名 (コード)	MOS対策WORD II A	(TGB142A)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、タイピング練習～WORD文章作成機能、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	タイピング (ローマ字打ち、ブラインドタッチ) の速さと正確さを習得し尚且つ、文章作成の諸機能を学習する。最終的には、履歴書を作成し、それを提出する。
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の復習テストと解説
2	文章を入力できる	Wordを使って、文章を打つ③
3	文章を作成できるようになる	Wordを使って、文章を作成する①自己PR
4	文章を作成できる	Wordを使って、文章を作成する②志望動機
5	文書の作成と管理ができるようになる	新規文書の作成と管理①
6	文書の作成と管理ができる	新規文書の作成と管理②
7	一般的なビジネス文書の基本ルールがわかる	ビジネス文書を打つ①履歴書作成を本部に申請する
8	一般的なビジネス文書の作成ができるようになる	ビジネス文書を打つ②
9	一般的なビジネス文書の作成ができる	ビジネス文書を打つ③
10	履歴書作成①	基本情報と学歴職歴を打つ①
11	履歴書作成②	自己PRと志望動機等を打つ②
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14	期末試験	履歴書提出
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策WORD II	(TGB142)	
講義名 (コード)	MOS対策WORD II B	(TGB142B)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、タイピング練習～WORD文章作成機能、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	タイピング（ローマ字打ち、ブラインドタッチ）の速さと正確さを習得し尚且つ、文章作成の諸機能を学習する。最終的には、履歴書を作成し、それを提出する。
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の復習テストと解説
2	文章を入力できる	Wordを使って、文章を打つ③
3	文章を作成できるようになる	Wordを使って、文章を作成する①自己PR
4	文章を作成できる	Wordを使って、文章を作成する②志望動機
5	文書の作成と管理ができるようになる	新規文書の作成と管理①
6	文書の作成と管理ができる	新規文書の作成と管理②
7	一般的なビジネス文書の基本ルールがわかる	ビジネス文書を打つ①履歴書作成を本部に申請する
8	一般的なビジネス文書の作成ができるようになる	ビジネス文書を打つ②
9	一般的なビジネス文書の作成ができる	ビジネス文書を打つ③
10	履歴書作成①	基本情報と学歴職歴を打つ①
11	履歴書作成②	自己PRと志望動機②
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14	期末試験	履歴書提出
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策EXCEL II	(TGB144)
講義名 (コード)	MOS対策EXCEL II A	(TGB144A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	GB1B	単位数 2単位
授業担当者	伊藤 玲	時間数 30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間 秋期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生がビジネスで使用されるデータ管理に必要なICT活用を習得して、MOS Excel 2021/365に合格できるExcelスキルを身に付ける。
全体の内容と概要	ビジネスに必須のMicrosoft Excelに関する操作スキルを身に付け、効果的なデータの集計・編集方法、実践的なワークシートやブックの管理、さらにネットワークドライブの利用ができるようにする。
授業時間外の学修	学習に使用するファイルはFOM出版のサイトからダウンロードできる。授業内でつまづいた部分などは各自復習しておくこと。
履修上の注意事項等	Excelの基本操作から学習するが、普段からPC操作やリボンやタブの使い方に慣れておくこと。尚、授業進度により、適宜内容を変更する場合がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ガイダンス・前期学んだことが実践できる、他ソフトとの連携ができる	ExcelとPowerPointの連携、PowerPointの基本の使い方 ※PowerPoint部分は資料を配布
2	効率的な表作成ができる	データの入力、表作成（前期の復習を含む）
3	シートの管理ができる	複数シートの操作
4	Excelで作成した表を印刷できる	表の印刷、ページレイアウト設定
5	グラフやオブジェクトの作成ができる	グラフの作成、グラフの書式設定（前期の復習を含む）
6	効率的なデータの活用ができる1	Excelデータベース機能の利用1
7	関数を利用できる	関数と関数のネスト
8	複雑な表を作成できる	表作成の活用
9	データを視覚的に表現できる	グラフの活用
10	視覚的な要素を表に追加できる	グラフィックの利用
11	効率的なデータの活用ができる2	Excelデータベース機能の活用2
12	データを多角的に分析できる	ピボットテーブルとピボットグラフの作成
13	便利な機能が利用できる	記録マクロ（操作の記録と再現）、その他の機能
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	今回は、学習教材として、linkedin「EXCEL基本講座」を利用する。このため、章立てなどの変更をすることがある。
参考文献・資料等	参考動画： https://www.linkedin.com/learning/excel-essential-training-microsoft-365-26102908/4037364?u=277640412
備考	スムーズな操作のために、各自、日本語の教科書などを復習し、よく使われる漢字の読みや日本で使われるビジネス用語を理解しておくことが望ましい。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	MOS対策EXCEL II	(TGB144)
講義名 (コード)	MOS対策EXCEL II B	(TGB144B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	GB1B	単位数 2単位
授業担当者	伊藤 玲	時間数 30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間 秋期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生がビジネスで使用されるデータ管理に必要なICT活用を習得して、MOS Excel 2021/365に合格できるExcelスキルを身に付ける。
全体の内容と概要	ビジネスに必須のMicrosoft Excelに関する操作スキルを身に付け、効果的なデータの集計・編集方法、実践的なワークシートやブックの管理、さらにネットワークドライブの利用ができるようにする。
授業時間外の学修	学習に使用するファイルはFOM出版のサイトからダウンロードできる。授業内でつまづいた部分などは各自復習しておくこと。
履修上の注意事項等	Excelの基本操作から学習するが、普段からPC操作やリボンやタブの使い方に慣れておくこと。尚、授業進度により、適宜内容を変更する場合がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ガイダンス・前期学んだことが実践できる、他ソフトとの連携ができる	ExcelとPowerPointの連携、PowerPointの基本の使い方 ※PowerPoint部分は資料を配布
2	効率的な表作成ができる	データの入力、表作成（前期の復習を含む）
3	シートの管理ができる	複数シートの操作
4	Excelで作成した表を印刷できる	表の印刷、ページレイアウト設定
5	グラフやオブジェクトの作成ができる	グラフの作成、グラフの書式設定（前期の復習を含む）
6	効率的なデータの活用ができる1	Excelデータベース機能の利用1
7	関数を利用できる	関数と関数のネスト
8	複雑な表を作成できる	表作成の活用
9	データを視覚的に表現できる	グラフの活用
10	視覚的な要素を表に追加できる	グラフィックの利用
11	効率的なデータの活用ができる2	Excelデータベース機能の活用2
12	データを多角的に分析できる	ピボットテーブルとピボットグラフの作成
13	便利な機能が利用できる	記録マクロ（操作の記録と再現）、その他の機能
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	今回は、学習教材として、linkedin「EXCEL基本講座」を利用する。このため、章立てなどの変更をすることがある。
参考文献・資料等	参考動画： https://www.linkedin.com/learning/excel-essential-training-microsoft-365-26102908/4037364?u=277640412
備考	スムーズな操作のために、各自、日本語の教科書などを復習し、よく使われる漢字の読みや日本で使われるビジネス用語を理解しておくことが望ましい。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC II_B	(TGB164B)
講義名 (コード)	TOEIC II_B	(THB164B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	前田 未来	時間数 30時間
成績評価教員	前田 未来	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	This module will help students to:①understand the key skills for TOEIC test ,② answer TOEIC questions with confidence by using the skills they have agained through the module.
全体の内容と概要	This module will provide an opportunity for student to gain the key TOIEC skills through practically designed excercises.
授業時間外の学修	Students are reocmmened to spend at least 10-15 mintutes for revision after every class.
履修上の注意事項等	Please note that "poor in-class performance" may be considered as "ABSENT".

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	Listening(L) :Part 3 Workplace Dilemmas ①(p38, p42-43) Reading(R) :Part 7 Office Memos and Notices ①(p139, p162-169)
2	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L :Part 3 Workplace Dilemmas ②(p38, p42-43) R :Part 7 Office Memos and Notices ②(p139, p162-170)
3	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ① (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ①(p88- 97)
4	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ② (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ② (p88- 98)
5	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ① (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ①(p139, p170-177)
6	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ② (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ② (p139, p170-178)
7	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ① (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ① (98-103)
8	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ② (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ② (98-103)
9	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-178)
10	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-179)
11	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ① (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ① (p140-141, 178-193)
12	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ② (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ② (p140-141, 178-194)
13	試験対策	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Taking TOEIC Skills and Strategies 1
参考文献・資料等	
備考	<p>*Please note that there may be some changes to the module content and schedule due to the students' level of understanding.</p> <p>*The following units will be covered as holiday assignments: Part 3 (p39, 46-47), Part 4 (p53, 60-61), Part 5&6 (p110-131)</p>

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC II_B	(TGB164B)
講義名 (コード)	TOEIC II_B	(THB164B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数 2
授業担当者	前田 未来	時間数 30時間
成績評価教員	前田 未来	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	This module will help students to:①understand the key skills for TOEIC test ,② answer TOEIC questions with confidence by using the skills they have agained through the module.
全体の内容と概要	This module will provide an opportunity for student to gain the key TOIEC skills through practically designed excercises.
授業時間外の学修	Students are reocmmened to spend at least 10-15 mintutes for revision after every class.
履修上の注意事項等	Please note that "poor in-class performance" may be considered as "ABSENT".

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	Listening(L) :Part 3 Workplace Dilemmas ①(p38, p42-43) Reading(R) :Part 7 Office Memos and Notices ①(p139, p162-169)
2	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L :Part 3 Workplace Dilemmas ②(p38, p42-43) R :Part 7 Office Memos and Notices ②(p139, p162-170)
3	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ① (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ①(p88- 97)
4	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ② (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ② (p88- 98)
5	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ① (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ①(p139, p170-177)
6	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ② (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ② (p139, p170-178)
7	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ① (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ① (98-103)
8	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ② (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ② (98-103)
9	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-178)
10	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-179)
11	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ① (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ① (p140-141, 178-193)
12	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ② (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ② (p140-141, 178-194)
13	試験対策	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Taking TOEIC Skills and Strategies 1
参考文献・資料等	
備考	<p>*Please note that there may be some changes to the module content and schedule due to the students' level of understanding.</p> <p>*The following units will be covered as holiday assignments: Part 3 (p39, 46-47), Part 4 (p53, 60-61), Part 5&6 (p110-131)</p>

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	表現研究Ⅱ	(TGB170)
講義名 (コード)	表現研究Ⅱ A	(TGB170A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	GB1	単位数 2単位
授業担当者	中村 久子	時間数 30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの文法とN1レベルの聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN1聴解 ポイント理解 19～22 どんなときどう使う日本語表現文型500
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN1聴解 概要理解 23～26 どんなときどう使う日本語表現文型500
3	質問に対する的確な答えが書ける。	必修パターンN1聴解 どんな時どう使う日本語表現文型500
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN1聴解 即時応答 31～39 どんなときどう使う日本語表現文型500
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN1聴解 即時応答 40～48 どんなときどう使う日本語表現文型500
6	質問に対する的確な答えが書ける。	必修パターンN1聴解 即時応答 どんな時どう使う日本語表現文型500
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN1聴解 即時応答 どんな時どう使う日本語表現文型500
8		JLPT模試 文法、F.B
9		JLPT模試 聴解、F.B 12/6 JLPT
10	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 どんな時どう使う日本語表現文型500
11	総合的な聴解力を身につける。	必修パターンN1聴解 模試問題 どんなときどう使う日本語表現文型500
12	総合的な聴解力を身につける。N2文法の定着を図る	後期のまとめ
13	質問に対する的確な答えが書ける。	演習問題
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン聴解 N1 どんなときどう使う日本語表現文型500
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	表現研究Ⅱ		(TGB170)
講義名 (コード)	表現研究ⅡB		(TGB170B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
3	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
4	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
8	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
9		JLPT模試 文法 F.B
10		JLPT模試 聴解、F.B 12/6 JLPT
11	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
13	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY! N2 文法 必修パターンN2聴解
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。 水曜日3限

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅡ	(TGB148)	
講義名 (コード)	キャリアデザインⅡA	(TGB148A)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自己のライフキャリアを見つめなおし、多様なキャリア形成の基礎を養うこと。自己のキャリア目標を詳細に設定し、記録し、振り返りできるようになること。
全体の内容と概要	専門学校へ進学した意味や目的を再確認し、必要なキャリア形成の知識・スキルを自ら調べてアウトプットできるようにする。
授業時間外の学修	不明点は授業時間外に学習者が調べ授業時間内に質問することとする。
履修上の注意事項等	学習者が自ら調べ、自分の意見をアウトプットさせて参加者のフィードバックを積極的に受けるスタイルとする。教員は学習者の発言を促し、授業全体をファシリテートすること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	後期授業の方針説明/今後の就職活動/進学活動スケジュールの確認/進路希望調査/外国人留学生は特定技能1号(外食)マイページ登録
2	後期の目標進捗発表	前期に立てた自己の目標の進捗を振り返る。進路希望ごとに集まり「あるべき姿」について話し合う。
3	進学についての理解を深める	3年次編入のスケジュール、応募条件、海外留学への準備スケジュール
4	自己理解	自己理解ツール(エゴグラム)を活用して自身の性格的特徴、得意分野を知る。グループ毎に集まり自分の特徴について発表する。
5	生成AIを自己PR作成に活用する。	生成AIを活用して自己PRを作成する。自分の性格的特徴や長所、エピソード(インターンシップ、アルバイト、ボランティアほか)をプロンプトに書いて発表。
6	起業について知る	グループごとに企業のメリット、リスクについて調べ発表する。外国人留学生は「経営・管理」ビザについて調査する。
7	就職活動の選考試験①	面接選考の種類(グループ面接、個人面接)、筆記試験の種類、エントリーシート、自己PR動画について調べる。代表者が模擬面接を受けて全員で振り返りを行う。
8	業界研究・求人票の見方	企業研究・業界研究をおこない自己の将来の進路選択の一助とする。就職支援アプリ(マイナビなど)の登録
9	履歴書作成①	学校指定履歴書用紙に記入する。パソコンを使用してもよい。学歴・職歴欄の作成。添え状(送付状)の書き方・(職歴がある場合)職務経歴書の書き方
10	履歴書作成②	自己PR文作成・志望動機の作成
11	就職活動の選考試験③	グループディスカッション対策。金魚鉢方式により代表者がグループディスカッションを行い、全員で振り返りを行う。
12	外国人留学生のための在留資格ガイダンス/就活キックオフ	外国人留学生のための在留資格、就職活動の進め方/就活早期化に伴う注意点・総括
13	キャリアガイダンス	就職活動早期化に伴う自己管理、スケジュール管理を行う。キャリアデザイン授業の総復習。
14	期末試験	模擬就職面接
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の回数と順番は、ラーニングスキルの講義日程と調整するため、変動する可能性があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	文書理解Ⅱ	(TGB172)
講義名 (コード)	文書理解ⅡA	(TGB172A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	GB1	単位数 2単位
授業担当者	竹内 通子	時間数 30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題5日目
2	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題6日目
3	語彙・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題7日目
4	語彙・グラフ内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題8日目
5	語彙・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題9日目
6	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題10日目
7	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦
8	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧
9	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
10	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
11	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 11日目
12	文法・接続詞・表理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 12日目
13	文法・図・接続詞副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 13日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	文書理解Ⅱ		(TGB172)
講義名 (コード)	文書理解ⅡB		(TGB172B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	予習：漢字は事前に書いて意味を確認しておくこと。 復習：授業で学んだ漢字の読みと語彙を復習しておくこと。
履修上の注意事項 等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。 配布された資料等は整理してファイルしておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 13課 総まとめ語彙N2 第4週5日目
2	漢字の習得 漢字「年・日」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 14課 総まとめ語彙N2 第5週1日目
3	漢字の習得 漢字「生・学」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週3日目
4	漢字の習得 漢字「手・合」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週5日目
5	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第6週1日目
6	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週3日目
7	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週5日目
8	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 20課 総まとめ語彙N2 第7週1日目
9	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週2日目
10	漢字の習得 言葉の前につく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 22課 総まとめ語彙N2 第7週4日目
11	特別授業	特別授業
12	漢字の習得 組み合わせの言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 23課 総まとめ語彙N2 第8週1日目
13	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週3日目
14	期末試験	どんどんつながる漢字練習帳 25課 漢字 学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	異文化コミュニケーションⅡ	(TGB174)
講義名 (コード)	異文化コミュニケーションⅡA	(TGB174A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	GB1	単位数 2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数 30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	異文化理解を深め、文化背景の異なる人と一緒に働き、学び、生活するために必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。
全体の内容と概要	日本語の表現や文化的な背景について学び、実践的なコミュニケーション能力を高めるために、講義、ペアワーク、グループディスカッション、発表などの活動を組みわせる。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるための学習が必須である。
履修上の注意事項等	配布したプリントはファイルしておくこと。自身の考えを他者に伝え、聞くために積極的に授業に参加する姿勢が必要である

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文化を越えて共通するテーマについて異文化の人々と話し合う。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ6 内容把握 漢字マスターN2
2	様々な文化を理解し、強制するための努力ができる。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ6 発表 漢字マスターN2
3	日本文化に興味を持つことができる。	時事（ニュースなど） 内容把握 漢字マスターN2
4	最近のニュースについて自分の意見を交えて説明する。	時事（ニュースなど） 意見を交換しグループで発表 漢字マスターN2
5	当たり前のことに対して自分の意見を交えて説明することができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ7 発表 漢字マスターN2
6		課題
7	他者の生き方から様々な学びを得る。	読解厳選テーマ 10 テーマ8 内容把握 漢字マスターN2
8	他者の人生について説明することができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ8 発表 漢字マスターN2
9	事象を的確に捉え、問題点を素早く分析し自分の意見をまとめる。	読解厳選テーマ 10 テーマ9 内容把握 漢字マスターN2
10	説得力のある話ができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ9 発表 漢字マスターN2
11	微妙なニュアンスの違いを理解しながら内容を把握することができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ10 内容把握 漢字マスターN2
12	日常の些細な差異についてわかりやすく説明することができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ10 発表 漢字マスターN2
13	後期の授業をふりかえる	後期の復習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日本語学習者のための 読解厳選テーマ10 中級 漢字マスターN2
参考文献・資料等	適宜配布する
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	異文化コミュニケーションⅡ	(TGB174)
講義名 (コード)	異文化コミュニケーションⅡB	(TGB174B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	GB1	単位数 1単位
授業担当者	竹内 通子	時間数 30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の読解を中心に学ぶ。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題5日目
2	語彙・図での内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題6日目
3	語彙・比較問内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題7日目
4	語彙・グラフ内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題8日目
5	語彙・比較問内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題9日目
6	課題	課題
7	図・表・比較問内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題10日目
8	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦
9	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧
10	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
11	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 11日目
12	文法・接続詞・表理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 12日目
13	文法・図・接続詞副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 13日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語Ⅱ	(TGB176)
講義名 (コード)	ビジネス日本語ⅡA	(TGB176A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	GB1	単位数 2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数 30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。漢字の意味把握と書き換えが瞬時にできるレベルにする
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

副詞		
回	到達目標	授業内容
1	食に関する言葉の理解	2章；1課；食生活、程度副詞、
2	日常的な用語の使い方理解	2課；家事、副詞、口語と文語、練習問題、漢字の読みかた、グループワーク
3	病気の時	3課；健康、副詞で作文、的を使った言葉、練習問題
4	芸術	3章；趣味娯楽、語形成 グループワーク 面接の練習、自己紹介
5	出張等の説明ができる	4章；1課旅行、交通、漢字の読み方、訓読み、音読み、ペアワーク
6	天気について説明できる	2課；自然 天気、自然に使う副詞
7	教育と仕事	5章 1課 学校、面接での自己紹介、他己紹介、関係副詞
8	教育と仕事	2課；仕事用語、働く副詞、1週間の仕事の説明
9	行事と 災害	7章：1課 行事、N2 練習問題
10	行事と 災害	2課；事故、災害 N2 練習問題
11	新聞が読めるようになる	3課；経済、産業、今の世界の景気について作文、グループワーク
12	新聞が読めるようになる	4課；法律、歴史、新聞から記事を探す
13	新聞が読めるようになる	8章科学、1課自然、環境、環境問題のニュースを調べる、試験の説明
14	後期末試験	試験
15	試験の解説	試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスターの語彙N2
参考文献・資料等	必要に応じたパワーポイント
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス日本語Ⅱ		(TGB176)
講義名 (コード)	ビジネス日本語ⅡB		(TGB176B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	樋谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	樋谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	予習：漢字は事前に書いて意味を確認しておくこと。 復習：授業で学んだ漢字の読みと語彙を復習しておくこと。
履修上の注意事項 等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。 配布された資料等は整理してファイルしておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 13課 総まとめ語彙N2 第4週6日目
2	漢字の習得 漢字「大・中」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 14課 総まとめ語彙N2 第5週2日目
3	漢字の習得 漢字「地・発」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週4日目
4	漢字の習得 漢字「気・家」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週6日目
5	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第6週2日目
6	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週4日目
7	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週6日目
8	漢字の習得 JLPT対策	どんどんつながる漢字練習帳 20課 JLPT模擬試験
9	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週3日目
10	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 22課 総まとめ語彙N2 第7週5日目
11	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 23課 総まとめ語彙N2 第7週6日目
12	漢字の習得 組み合わせの言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週2日目
13	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 25課 総まとめ語彙N2 第8週4日目
14	期末試験	語彙 学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。